

国語 第6学年 書き表し方を工夫して、経験と考えを伝えよう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：大切にしたい言葉と、それに関わる自分の経験を結び付けて文章にする。名言の説明に終始せず、その経験のどこで自分の考えが動いたかを詳しく書く。事実と、そのときの感想、今の考えを区別する。B(1)ウの学習として、大切にしたい言葉をめぐる文章。詳しくした場面と、その理由を下書きの空欄に残す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、経験した事実と感想、今の考えを区別し、大切にしたい理由が伝わるよう詳しくさを調整して書いているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)ウの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：大切にしたい言葉をめぐる文章を残す。詳しくした場面と、その理由を下書きの空欄に残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)ウに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：有名な言葉の由来を説明するだけになる。実際の出来事に後から考えた気持ちを混ぜる。これについて、経験のメモに「起きたこと」「そのとき思ったこと」「今考えること」の見出しを付ける。公開したくない経験は選ばせない。出来事が思い出せない児童は学校生活で印象に残った言葉から探す。〔知識及び技能〕(1)オとB(1)ウを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「その言葉を大切にしたい理由が、出来事のどの部分から伝わりますか。詳しく書く所と短く書く所をどう決めますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)ウに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：大切にしたい言葉をめぐる文章は紙に記録できる。詳しくした場面と、その理由を下書きの空欄に残す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)ウの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)ウで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：深刻な体験を書いた方がよい文章になるのか。

返し：B(1)ウの評価は題材の重さではない。本人が選んでよい日常の出来事で、事実と考えを分け、伝えたい理由に応じて詳しくを変えたかを見る。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「その言葉を大切にしたい理由が、出来事のどの部分から伝わりますか。詳しく書く所と短く書く所をどう決めますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)ウに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

